

平成23年度テーマ

◆探究的な学習指導の進め方について ◆体験活動と言語活動の充実について

I 活動内容

- 1.上記の2テーマに基づき、部員50名が春～秋にかけて各自実践を行い、レポートを作成。
- 2.11月18日に一堂に会し、小中の代表2名の実践発表後、持ち寄ったレポートでグループ討議。

- 1 部長あいさつ
- 2 実践発表 各30分
  - ①大和小 中山 卓教諭
  - ②柿崎中 荻谷隆雄教諭
- 3 レポート交換によるワークショップ
- 4 副部長あいさつ

II 総合部会（11月18日）の内容 次第は右による  
実践発表（概要紹介） 30分×2

<上越市立大和小学校 中山 卓教諭の実践 小学校3年生対象>

表現力を高める指導の工夫 ～国語科との関連を図った3年生の実践から～

- ・「大和のお宝発見隊！」の単元と国語科の全ての「書く」「話す・聞く」領域を関連させた実践。
- ・田村のいう「各教科との関係」の6つのタイプのうち、「包括型」と「教科活用型」の2つのタイプで実践を試み、総合と国語が補完し、支え合うことで年間70時間の縮減に対応できるとしている。
- ・町探検からまず「自分のお宝」を見つけ、お宝のありかを国語の「道あんないをしよう」の単元と関連づけて詳しく地図等でまとめた。ガイドブックを目指し「みんなのお宝」に発展させ、お宝の定義を作って再度情報収集を行った。
- ・地域の住民を教室に招いた「お宝鑑定団」認定会で、認定された宝をコンピュータで見やすくガイドブックにしていた。国語の「説明書をつくらう」や「ローマ字」の単元と関連づけている。
- ◆相手意識目的意識をもたせた学習で、話し合いながらガイドブックをさらに良くしようとする本気の姿がある。国語の技法や技能を活用し、分かりやすく表現する力がついている。探究的、協同的な学びを実現した優れた実践。地域を愛する気持ちが育ち、図工の絵画表現にまで効果が現れている。

<上越市立柿崎中学校 荻谷隆雄教諭の実践 中学校3年生対象>

3年生の年間を通したカリキュラムについて

- ・1年間を数期に分けることで、集中した取組を行っている。課題対応を集団か個人かで分けている。プレゼンは個人作成。
- 1学期 4・5月「ポスターセッション」修学旅行新聞個別作成と研修発表会  
6・7月「ディベート」判別対抗ディベート テーマ例「原子力発電はやめるべきである」  
「どらえもんはのび太のためになっている」他15種
- 2学期 9・10月「高等学校調査と発表会」 11月・12月「課題追究学習」 柿崎区への提言 こんな柿崎にしたい
- 3学期 1・2月「卒業プロジェクト」卒業文集、校内ボランティア
- ◆ディベートの方法は本格的に学ばせており、高校調査発表の一人5分プレゼンは、地元新聞でも脚光を浴びた。

3 レポート交換によるワークショップ 60分間（小学校6グループ 中学校3グループ）

◆年間活動計画に探究活動や言語活動の棚づくり、意識的に実践している学校や子どもの思考を深めさせる手立てを工夫している学校、ダイナミックな体験から→作文→話し合い→調査のサイクルを繰り返す学校等、すばらしいレポートがいくつもあった。収集した情報を整理分析する手法が多様であることや地域に根ざし、地域を愛する子どもを育もうとする意欲が全体から感じられた。実際に、地元新聞に総合の活動が多く掲載されている。地域活性化の鍵を総合が握っていると強く感じた。